

「住みたくない街大賞に輝いた話」

※この物語はフィクションです。実在の場所とは関係ありません。

ノコママ「今年も【住みたくない町大賞】が発表されたわ♪」
ノコママ「どれどれ……あらやだ！」
ノコママ「ノコの住んでいる町が住みたくない町大賞じゃない！」

ブルルルルル……
ブルルルルル……
ガチャ

ノコ「もしもし？」
ノコママ「もしもーし、お母さんだけど！大変大変！」
ノコ「どうしたの？」
ノコママ「ノコの住んでるところ【住みたくない町大賞】なんだって！」
ノコ「え……」
ノコママ「治安とか大丈夫なのー？」
ノコ「……」
ノコママ「お母さん心配よー？」
ノコ「大丈夫だから！」
ノコ「もう切るね！」
ノコ「じゃーね！」
ノコママ「はーい。」
ガチャ

ノコ「……」
チカ「お母さん？」
ノコ「そうよ。」
ノコ「なんで私の住んでるこの町が！」
ノコ「【住みたくない町大賞】なのよ！！！！」
チカ「うわっ、そうなんだ。」
チカ「しょうがないよ。」
ノコ「どうしょうがないのよ！！」
チカ「だってこの町なにもないじゃん。」

ノコ「のどかでいいじゃない！それにとっても静かよ！」
チカ「ノコちゃんの言ってることはわかるんだけど……。それって何も無いって認めてるよ
うなもんじゃない？」
ノコ「近所にコンビニだってできたじゃない！」
チカ「ローカルコンビニね。全国チェーンですらないよ。」
ノコ「ぐぬぬ……。」
チカ「しかも 24 時間じゃないし。」
ノコ「24 時間コンビニなんてダメよ！」
ノコ「すぐに不良のたまり場になるじゃない！」
チカ「その不良ですら、全然いないじゃない。」
ノコ「もはや不良ですら狭間町では絶滅危惧種なのね……。」
チカ「絶滅危惧種といえば、メダカも絶滅の恐れがあるらしいんだけどさ。この家の目の前
の狭間池公園にはいっぱいいてね。」
チカ「すげーかわいいんだー。」
ノコ「メダカはともかく、その理屈なら不良だってどこかにはまだ生き残っているかもしれ
ないじゃない。」
チカ「ん????」
チカ「そんなに不良がいてほしいの……？」
ノコ「そういう訳では決してないけど、そんな不良たちも住みたくない町なんて……！」
チカ「そういう見方をすると確かにきついね。」
ノコ「治安とか心配されたんだけど？」
チカ「野犬とかは怖いね。」
ノコ「はあ……狭間町は電車に乗って 1 時間半くらいで東京駅まで行けちゃう距離感でし
よ？」
ノコ「ギリギリでこういう首都圏ランキングの対象になっちゃうのがいけないのよ！！」
ノコ「もっと離れればダシにされることもないのに……。」

ガチャ！

ポイ「話は聞いたわよ！」
チカ「あれ？」
ポイ「マキナとメアは？」
ポイ「二人で新宿に買い物に行ったわよ。」
ノコ「新宿！！！！」
ノコ「高難易度ダンジョンじゃない！」
チカ「いいなー。」
チカ「都内に買い物だあ。」

ノコ「ここだって都内なんだけど？」
ポイ「二人だけでコソコソしてたから何か企んでんだろうなって思うわ！」
チカ「ふーん、とこでさ……。」
ポイ「住みたくない町大賞のことね！」
ポイ「パパの持ってる出版社が格付けしたのよ！」
チカ「え、そうなの!？」
ポイ「うん！」
ポイ「二人の話を聞いていたけど、結果に不満があるみたいじゃない」
ノコ「あるわよ！めちゃくちゃあるわよ!!!」
ノコ「なんでこの狭間町が住みたくない町大賞なのよ!!!」
ポイ「だってあまりにも何もないじゃない。」
ノコ「あるわよ！」
ノコ「自然とか！」
ポイ「自然とか？」
ノコ「緑とか！」
ポイ「緑とか？」
ノコ「……空気も綺麗だし！」
チカ「ナイスファイト！ノコちゃん！」
ノコ「ぐぬぬ……。」
ポイ「逆に聞きたいんだけど、ノコは【住みたい町大賞】とかに憧れるの？」
ノコ「まあ……ね……。」
ノコ「住んでるところに誇りを持ちたいじゃない！」
ノコ「そうだ！ポイの力でここを【住みたい町大賞】にできない？」
ポイ「できるわよ？」
チカ「ちょちょちょ！」
チカ「それじゃ意味ないよ!!!」
ノコ「いいのよ。」
ポイ「まあ【住みたい町大賞】なんて不動産業界が売りたい町大賞みたいなもんだし？」
ポイ「大賞にするのにちょっとだけ街の開発をするけどいい？」
ポイ「人が集まってくるわよー？」
ノコ「望むところよ!!!」
ノコ「とこでちゃんと24時間コンビニできるのかしら？」
ポイ「きっと他にも色々できるわよ……。」
チカ「え……じゃあスターバニーズコーヒーとかもできるかなあ？」
ノコ「わくわくするわね！」
ノコ「よし！ポイ！まかせた！」

ポイ「まかされたあ！」

そして【住みたくない町大賞】から【住みたい町大賞】に狭間町は輝いたのだ！！

進む開発！

増える人々！

鳴る電話！

けたたましく響く騒音！

プルルルル……！

プルルルル……！

ガチャ

ノコママ「あ、ノコー？」

ノコ「……。」

ノコママ「【住みたい町大賞】にあなたの住んでる町が輝いたそうじゃない！」

ノコ「まあ……ね……。」

ノコママ「今度遊びに行くから！」

ノコ「いやおかまいなく……。」

ノコママ「お母さんの友達も行きたいって言ってるわよ！」

ノコ「え。」

ノコママ「ノコが中学のときの同級生のお母さんとかも興味持ってね！」

ノコ「あ、あ、あ……！」

ノコ「ちょ……ちょっと用事があるからまたかけ直すね！」

ガチャン

ノコ「はあ……。」

ノコ「また電話かかってきた……。」

ノコ「このところ毎日かかってくるのよ……。」

チカ「人が増えちゃってバスが一時間に一本しかないのに、全然乗り切れないんだけど……。」

ノコ「学校行くのも一苦労よね……。」

ポイ「駅前のおまんじゅう屋さん、いつのまにかに昔ながらの名産品になってたわね！」

ポイ「さらに日本初上陸とも書いてあったわよ。」

チカ「たくましいなあ。」

チカ「あの店去年できたばかりなのにね。」

ポイ「これがノコの望んだ【住みたい町大賞】よ……！」

ノコ「こ……こんなはずでは……。」

マキナ「隣にできたコンビニ行ってきたよー！」

メア「便利になりましたね！」

ノコ「うう……夜中もずっと明かりがついてるし。」
ノコ「虫が……虫が……。」
マキナ「青い光でバチバチいってるよね。」
メア「それに不良が入り口にいっぱいいてちょっと怖かったですね。」
ノコ「あいつら夜中でもうるさいのよ！！」
マキナ「注意しに行く？」
ノコ「ダメ！無理！怖いもん！」
ノコ「怖くて外に出られない……。」
ノコ「人が多いし、車も増えて排気ガス臭いし……。」
ノコ「ついでに目の前にマンションが建つらしいし。」
ノコ「日光が遮断されるー！」
チカ「んんんん？」
チカ「じゃあ池が埋め立てるの！？」
チカ「メダカが——！！！！」
チカ「メダカを守ってよおおお！！！！」
マキナ「大家さん、家賃上げるみたい。」
ノコ「！！！！」
メア「！！！！」
チカ「勘弁してよおおおお！えーん！」
ノコ「ね……ねえポイ。」
ノコ「本当に勝手なんだけど元に戻せる……？」
ポイ「しょうがないわね！」
チカ「元に戻るもんなの！？」

こうして狭間町は【住みたくない町大賞】に返り咲いた！！！！
チカ「あっっっっっ！！！！！！」
チカ「というまに人いなくなったね！！！！」
ポイ「流行りが廃れたら人ってこんなものよ。」
チカ「もはや犬しか歩いてないけど、メダカは守られたのだ……！」
マキナ「……コンビニ撤退しちゃったね。」
メア「駅前のおまんじゅう屋さんなんですけど、地域密着の老舗って謳い始めましたよ？」
チカ「たくましい！」
ノコ「あとに残ったのは意味不明な【ハザマネーゼ】って言葉だけ……！」
ノコ「なんなのあれ。」
チカ「【シロガネーゼ】みたいなもので、あの一瞬の熱狂の間に狭間町の住民につけられた名前だよ。」

チカ「つまりね、私たちのこと！！」

ノコ「そりゃネーゼ……。」

おしまい